
暗黒の影を引き摺る天使

HIRO.T

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暗黒の影を引き摺る天使

【Nコード】

N5211E

【作者名】

H I R O ・ T

【あらすじ】

どの盗賊団でも足手まといになるからと子供は掠ってこないルールだが例外があった。稀にしかないその例外が今回の略奪で起こったが……。

「ガキを拾ったって？」

「お頭！」

男たちが一斉にそちらを向く。

足手まといになるからと略奪の際に子供と一緒に掠わないのは、暗黙のルールだった。

だが例外はある。

商品としてもものになりそうな子供の場合だ。

そう認められた子供がいると知って自分の前に引き出されるのを今か今かと待っていたが、なかなか連れてこられないことに痺れを切らして出向いてきたのだ。

「なんだ、お前たち。ボロボロじゃねえか。今日の村は大した抵抗もなかったらう？」

「それが……」

男たちの視線が今度は逆方向に向く。

原因は子供だと無言で訴えているようだ。

たかだかガキ一人に……と訝しげな表情で一同を見回してから、視線の先にゆっくりと足を向ける。

そこには頭から毛布にくるまった荷物、いや子供がいた。

チラリとのぞく金色の髪。

珍しいこの髪色はそれだけで高値がつく。

ピクリとも動かない身体の横にしゃがみ込み、毛布の端に手をかけた。

ゆっくりとめくれば、猿ぐつわを噛まされ苦しげな表情を浮かべたまま気を失っていた。

容姿も息を飲むほど美しい。

自分たちには縁のない教会にある絵画の中の天使のようだった。「連れてくる途中で気を失った……というわけじゃなさそうだな」

じろりと男たちを睨め付け、

「何をした？」

「……何をつて……売り物になりそうかどうか、ちよいと調べてみようと思っただけで」

「どういう調べ方をした」

「ただ服を脱がしただけで……」

毛布を全て取り去ると、確かに裸で、両腕は後ろ手に縛られていた。

「手は？ 何故縛つてある？」

「暴れるからで……」

「傷が付かないように布を巻いてはあるが、赤くなってるな。それに……」

横向きに倒れている子供の右肩を押して一瞥すると、

「腹を打ったのか？」

「暴れるんでさあ。それで……」

「ガキ一匹を、この数で抑えられないのか！」
静かな怒号が響く。

「け……けどこいつ、暴れっぷりが半端なくて。それに傷つけちゃなんねえと思うから手荒なことは……」

「半端なくてもガキだろう」

猿ぐつわを解き軽く頬を叩く。

「ほら、起きろ」

うつすらと目が開く。

「……翠」

その色は魔性の証と言われる色だった。

「これは……高値か値がつかないか、二つに一つ。これから行く街で物好きがいることを願うしかない——」

言い終わる前に、子供は唾を吐きかけた。

「……ほう、イキもいい」

ニヤリと笑いながら顔にへばりついた唾を手の甲でぬぐう。

「縄をほどけ」

子供らしい声音だが、口調は厳しいものだった。

「大人しくするならな」

「お前たち次第だ」

「イキがいいのは歓迎だが、生意気なのは困る」

「図々しいのは少し我慢してやるが、指図はするな」

裸で縛られて転がされている状態で飛び出してくる言葉と思えず、男たちは一瞬息を止め、そして大声で笑い始めた。

「こいつイカレてるぜ」

「自分の立場が分かってない」

ひくことのない笑いがしばらく響き渡っていたが、一陣の風が吹き抜けた。

「大人しくしていればよかったのに」

子供が薄く微笑を浮かべた。

それは誰が見ても哀れみを感じるものだった。

直後、ヒツという短い悲鳴が響いた。

誰だ？と問いかけ辺りを見回したが、異常はない。

だが次の瞬間、仲間の男が一人、うつ伏せに倒れ込んだ。

背中から泉のように血がわき出ている。

一瞬にして緊張が走り、全員が抜刀した。

だが辺りに人影どこるか気配もない。

「出てこい！」

野太い声で叫ぶ。

そして返答は耳元に返された。

「おやすみ」

ハッとして振り返れば、金色の髪の子供が艶やかな笑みを浮かべていた。

「お前…どうやって……」

縄は解かれ、毛布をゆるく身体に巻き付けていたのだ。

子供から笑みが消えた瞬間、真実を知った。

同じ顔、同じ瞳の色の子供がもう一人。

だが髪の色は漆黒だった。

「僕たちを引き離そうとする者は、地獄に墮ちる」

見たことのない武器が振り下ろされると、男たちは一人、また一人と倒れた。

「や…や…やめろ…もう…」

「僕を見た代価は命だ」

カマが振り下ろされた。

(後書き)

UW様(http://pokopkopen.ikaduchi.com/)のお題『堕天したあなたへ5のお題』の二つ目です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5211e/>

暗黒の影を引き摺る天使

2010年12月30日14時36分発行